

おばけの季節【学校篇】

陽羅 義光

現実をさておいても、映画やテレビや漫画などで、学校に出るおばけが怖いのは、ひとつに狙われるのが子供たちだということです。

それは、子供たちが狙われる傷害事件や誘拐事件が怖いのと似ています。

その意味では、学校に出るおばけは、けしからん。

それにここしばらく、懐爺にばかり話をさせたので、金ちゃんの出番が少ない。

今回、学校の怪談にしようとした理由は、そういうことです。

でも、場所が場所ですから、なるべく可愛いおばけに絞らせていただきます。

じっさいにそうなるかは、金ちゃんにおまかせするしかないのですが。

禿光山人 拝

* * *

「かいじいよ、たまには、わしに、はなしをさせんかのう」

ぼくは提案しました。

「それは、願ったり叶ったりです。待ってました、金ちゃん」

懐爺はそういいましたが、ほんとうに待っていたかどうかはわかりません。

「わしのはなしは、しょうがっこうにでる、おばけのことじゃ」

「いいですねえ。小学校は、おばけにとって、最も住み心地のいい住処（すみか）ですよ」

ほんとうにいいかどうかは分かりませんが、ぼくは話しはじめました。

「がっこうのおばけは、やっぱし、こどものなまえが、おおいのう。し

かも、おんなのこのなまえばかりじゃ。

【はなこちゃん】

【さだこちゃん】

【しめこちゃん】

【いわこちゃん】

【きくこちゃん】

【でんこちゃん】

【うんこちゃん】

「それらはおばけというよりも、みんな幽霊ですね。たまに男の幽霊もいますが、幽霊は女と相場がきまっています」

懐爺の蘊蓄(うんちく)が始まると、話ではなく会話になってしまう。

「なぜに、おんななんじゃ」

「そうですねえ。色気の問題ですかね」

「こどもでも、いろけのもんだいかい」

「それと、女のほうが恨みがましい。男には諦めも覚悟もありますから。男が、うらめしやーとやっても、飯屋はその裏かといわれるのがおちでしょうね」

「うらみがましいわしは、おんなかのう」

「男と女は紙一重ですからねえ。金ちゃんも、十年後には女になっているかもしれせん」

「かいじいも。いじわるじゃのう。かいじいの〈いじ〉は、いじわるの〈いじ〉かのう」

「そんなことより、学校の怪談をよろしく」

「おう、そうじゃった。だば、はじめは【うんこちゃん】でいこうかのう」

「最初から臭い話ですか」

懐爺は鼻をつまみました。

「それもそうじゃな」

ぼくは気をとりなおし、気分を新たに、喋り始めました。